

雨水管排水中継ドレン改修は「更新」から「再生へ」

「DR工法」の採用進む

ハツリ不要で振動・騒音・粉塵発生ゼロ

大勝テックが開発 安価な工費・短工期を実現

各戸のベランダやバルコニーに設置されている雨水管の中継ドレン改修はこれまで「更新」で行われてきた。コンクリートをはつって既存ドレンを撤去し、新しいドレンを挿入、左官で仕上げるが振動や騒音、粉塵が発生し、住民への負担が大きかった。こうした振動や騒音・粉塵の発生がなく、工期を短縮し、そして工事費の大幅減を実現させた「再生工法」が開発された。大勝テック(本社東京、大谷達裕社長)の特許技術である「DR工法」だ。給・排水管の改修で広く採用されているライニング工法(更生工事)と同様に、既存配管そのまま再生される工法だ。

同社独自開発した治具「DRバルーン」を用いた。簡単に言うと強化繊維を特殊な風船を膨らませて管壁に密着固定させる方法。中継ドレンの劣化で雨水管が多少なりとも落ちていても一体成型可能だ。

この3月末に第3回目の大規模修繕工事を完了した「シーサイド真砂」(築42年、13階建て、400戸)の施工現場でも採用された。

同現場の改修設計を担当した協和建築設計事務所(本社千葉県千葉市)の上田修常務は「自身のDR工法採用だったが、今後は築40年前後の第3回目の大規模修繕工事を迎えるマンションの改修設計仕様にしていきたい」と高く評価する。その最大の理由として「3〜4日必要となる。上、2人1組になって3〜4日必要となる。しかも、その後防水工事には一定の乾燥時間が必要となる。その点、DR工法は3〜4時間で終了する。しかも、翌日には防水工事を入れる。作業も1人で済む。大勝テックの大谷社長によれば「おおよそ工期は3分の1になる」と話す。工費も約半額である。中継ドレンの改修箇所が多ければ多いほどDR工法のメリットは増す。騒音も振動もそして粉塵も発生しない、加えて工期も3分の1、工費も半値となれば、DR工法を使わない手はない。今後の主流工法になることは間違いない。

「アラミド繊維強化FRP」でドレンと雨水管を一体成型

大勝テックは老朽化した給水管のライニング工法を中継ドレンの劣化対策用に開発してきた。設備会社の器用さから過去、改修大業者から依頼されて中継ドレンの更新も手掛けてきた。この時の掛けた。この時の

大勝テックは老朽化した給水管のライニング工法を中継ドレンの劣化対策用に開発してきた。設備会社の器用さから過去、改修大業者から依頼されて中継ドレンの更新も手掛けてきた。この時の掛けた。この時の

大勝テックは老朽化した給水管のライニング工法を中継ドレンの劣化対策用に開発してきた。設備会社の器用さから過去、改修大業者から依頼されて中継ドレンの更新も手掛けてきた。この時の掛けた。この時の

施工前の状況



ドレン金物劣化による破断状況



DR工法による施工状況



施工後の状況



ドレンと雨水管を一体成型施工



ルーフトドレン改修でも脚光

雨水管の中継ドレンが主流だった。中継ドレン改修と併せて「DR工法」の採用が進んでいくのが、屋上やバルコニーのドレン劣化対策だ。従来は既存のドレンを撤去せずにドレンの口径を狭くしたケーシングも多発していた。強化できる。



さびで傷んだルーフトドレン



「DR工法」で再生

排水ドレンの改修は「DR工法」にお任せください



株式会社大勝テック

TEL.03-5647-9555

FAX.03-3856-2873

東京都足立区西新井2丁目1番18号

http://daisho-tec.com